

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1	施設名	パルいずみ
2	指定管理者	社会福祉法人 緑仙会
3	指定期間	平成29年4月1日～平成34年3月31日
4	施設の利用状況	<p>《利用者数》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度 3,709人 (前年度比 92.82%) ・平成28年度 3,996人 (前年度比 101.58%) ・平成27年度 3,934人 (前年度比 117.05%) <p>《事業》</p> <p>精神障害者が自宅から通所し、作業やレクリエーション等の必要な訓練・指導を受けることで、自活の促進を図る。</p>
5	収支の状況	<p>《費用》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 指定管理者に支払った費用 49,370千円 (47,347千円) ()は前年度決算額 ・ その他市が負担した費用 0千円 (234千円) <p>《収入》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 使用料収入 24,870千円 (26,421千円) <li style="padding-left: 20px;">【再掲：利用者負担額 171千円 (168千円)】 ・ その他収入 千円 (千円)
6	利用者の声	<p>《実施状況》</p> <p>平成30年1月、指定管理者の協力のもと障害者支援課でアンケートを実施し、25人/27人(92.6%)の回答を得た。施設の利用に関し、満足又は大変満足が63.2%であり、普通が33.6%、不満が2.4%、大変不満が0.8%であった。</p>

二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	<p>施設の設定目的に基づいた管理運営が適切になされている。</p> <p>就労移行支援事業及び就労継続支援B型事業のサービスの提供に意欲的に取り組んでいる。</p> <p>退所者に対しても、就労後の職場定着支援として、事業所訪問や電話連絡といったアフターフォローに努めている。</p>	S
II 施設の運営管理体制	<p>必要数の職員が配置されており、職員間での情報共有も図られている。また、経理処理についても、経理を担当する職員を配置し書類作成などが適切に行われている。</p> <p>利用者への訓練や指導の質の向上を図るため、個人情報の管理に配慮しつつ職員間での情報交換や情報共有を目的とした各種会議を開催している。また、事故や災害に備えた研修を行うとともに、マニュアルを作成し緊急時対応のための体制も適切にとられている。</p>	S
III 施設・設備の維持管理	<p>建物・設備の保全や備品管理については、委託仕様書に沿った適切な管理・取り扱いがなされている。施設内の清掃は定期的に行われており、利用者が衛生的かつ快適に利用できる状態であった。</p> <p>グリーン購入に関しては前年度と同様、予算範囲内で積極的に取り組んでいる。また昨年度同様、冷暖房等空調設備の省エネ運転や不要な照明の消灯などの取組みに努めた。</p>	S
IV サービスの質の向上	<p>施設職員の資質の向上や意識啓発、応対や接遇に関する研修や外部研修を取り入れる等幅広い内容で実施している。</p> <p>サービス水準の確保のため、事務フローマニュアルを適切に作成している。</p> <p>ホームページでの情報提供や施設のパンフレット作成等を随時見直し、適切な利用情報の提供に努めている。</p>	S
V 施設固有の基準	<p>就労移行支援事業においては「就労チェックリスト」、就労継続支援B型事業においては「アセスメントシート」をそれぞれ事業所独自のものを作成し、利用者の支援に活用している。</p> <p>また、工賃目標の設定、工賃向上に向けた利用者とのグループワークの実施、就労移行支援プログラムや職場開拓、工賃向上へ向けた自主製商品の商品開発や販路拡大のための営業活動等に積極的に取り組んでいる。</p>	S

三 その他特に評価すべき優れた取組み

(指定管理者の優れた取組みを評価する 加点要素)

評価すべき取組み		取組み状況
1		
2		
3		
加点評価		—

四 評価総括

《指定管理者（社会福祉法人 緑仙会）による自己評価》
<p>緑仙会では、社会福祉法人制度改革を受けた新たな経営体制をスタートさせ、中期経営計画の利用者数や収入に関する項目の成果指標を実績を踏まえて見直すとともに、目標達成に向けた行動計画を策定した。</p> <p>就労移行支援事業においては、利用者の雇用につながるよう基礎訓練及び講義等の事業所内プログラムに加え、個々の状況や希望に沿った労働条件の絞り込みを行い、職場見学及び実習等の事業所外プログラムを提供した。また、外部講師による「身だしなみ講座」を実施するなど、就労への意欲向上に取り組んだ。その結果、1名が一般のパート雇用で採用となった。加えて、就職者に対する事業所訪問や電話でのアフターフォローを継続して行い、職場定着を図った。その他、就労継続支援B型事業所の利用を検討している2名に対して就労アセスメントを実施した。</p> <p>就労継続支援B型事業においては、利用者一人ひとりに合わせたサービスの充実を図り、個々の目標が達成されるよう支援を行った。また、工賃向上に関しては、下請作業の受注拡大及び新規自主製品の開発及び販路拡大に取り組み、年間の収入は若干減少したものの、下請作業収入は増加した。利用者の平均工賃月額については、利用者の減があったため、28年度に比べて増加した。</p> <p>利用者の増員に向けた広報活動について、積極的に区保健福祉センターや精神科病院、障害者相談支援事業所等の訪問し、事業所紹介を行ったほか、広報誌、ブログによる事業所紹介を行った。就労移行支援事業においては、28年度と比較し2割を超える利用者数の増加となった。また、就労継続支援B型事業では1割程度の利用者の減少となり、全体としては利用率の向上に至らなかったが、今後も行動計画に基づいて積極的な広報活動を継続し、利用者増員及び利用率の向上に取り組んでいく。</p> <p>その他、地域における取組として区自立支援協議会実務者ネットワーク会議への参加(9回)やイベント等での自主製品販売を通じた地域交流、保健福祉センター主催の家族教室や精神科病院の家族会での講話を実施した。また、精神保健福祉援助実習等の実習生を受入れ、地域における人材育成に協力した。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>平成29年度の管理運営については、協定書及び仕様書に従って適切・良好に行われていた。</p> <p>就労移行支援事業においては、利用者の雇用につながるよう基礎訓練及び講義等の事業所内プログラムに加え、個々の状況や希望に沿った労働条件の絞り込みを行い、職場見学及び実習等の事業所外プログラムを提供したことなどにより、28年度と比較し2割を超える利用者数の増加となったことは評価できる。</p> <p>全体としては、研修の実施による職員の人材育成の取組みを積極的に行うことなどにより、就労移行支援事業所と就労継続支援B型事業所として良好なサービスに繋がっているため、総合的に高く評価できる。</p>	S

◎ 評価担当課（施設所管課）：健康福祉局障害福祉部障害者支援課